喫茶ルオー

フィールドワーク　2018

Team　優柔不断

16N1044　河野　遥
16N1057　源馬　康平
16N1089　谷村　万梨
16N1103　中谷　司

参謀本部との比較

現在の道と参謀本部の『道の変化』に注目して色分けした。

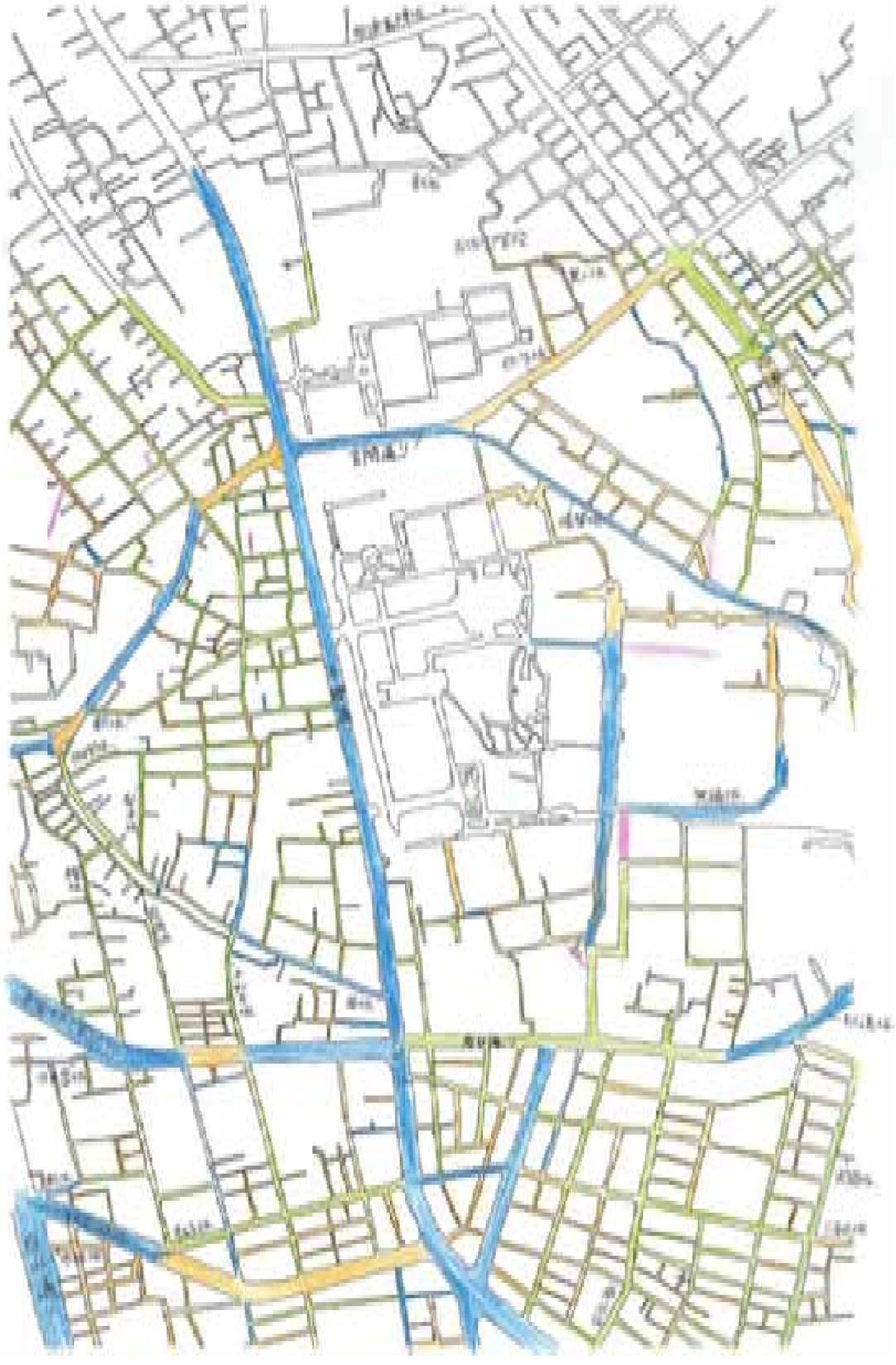
・菊坂付近の道はあまり変化がない。
・現在の春日通りは昔は存在しておらず、道路拡張を経て繋ぎ合わせられたものである。
・地形に沿って道がつくられている。
・かつて地形が複雑だった場所にも現在は整備されており、住宅が建ち並んでいる。

ー全く変わってない道

ー変わった道

ー なくなった道

ー新しくできた道



安政 6 年 (1859 年) との比較

江戸時代の『土地の使われ方』に注目して現在の地図に色分けをした。

・大名の上屋敷や中屋敷が集中しておりベッドタウンになっている。
・大名たちに使える持組や家来が近くに住んでいる。
・大通り沿いに町家が並んでいる。
・寺院も多くありそれを中心に町が広がっている。

- ー道
- ー川・沼
- ー寺社
- ー町家
- ー武家屋敷

街歩きでの発見

道について

建物について

ここのあたりは戦災、震災の影響をうけていないため、T字路が並びあまり区画整理がされていない様子が伺える。

豊かな地形に沿って、複雑に道路が入り組んでおり、細い道 (約 3.6m) が多い。

宅地開発が進み、道路幅の調整がされていた。

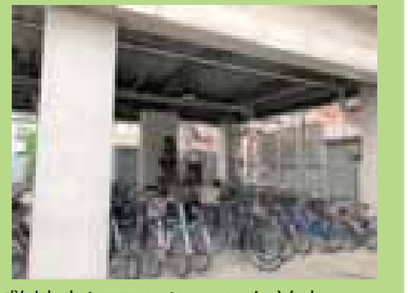
現存する木造の建物がちらほら見られた角地に結構残っており、その影響でそこの区画整理があまり行われなかったのではないかと考える。

新しい建物しか見られなかったので、ここは新しくつくられた区画だということの確認が取れた。

車が通れない通りになっており、飲食店がわずかに立ち並ぶ。

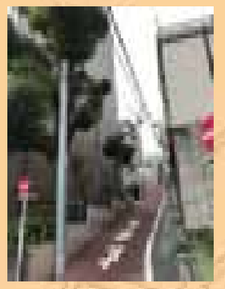
昔神社があったが、今は開けた場所となっており、車どおりが少ないため、わりと自由な使われ方をしている。

ペリカン書房など昔から残っている店はごくわずかで今はシャッター通りとなっている。



寛永 16 年　1639 年に開山　敷地内にマンションも並立

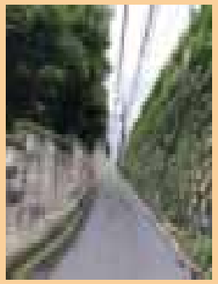
文豪の街として
樋口一葉に関する
建物が保存されて
いる
下図は現在も
住宅として使わて
いる



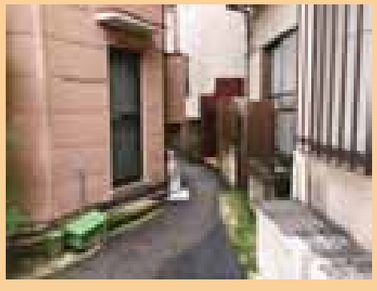
新坂と呼ばれる
江戸時代に開かれた
坂の一つ
急な坂でありここの
上の方にも拡幅の
操作あり

左図は菊水湯の跡地
今はアパートになってしまい、
目の前に住む栗原荘に住むおじさん
の話によると二年前までは菊水湯に
来る客で夜までにぎわっていたそうである
右図は戦災、震災を逃れた木造３階建て

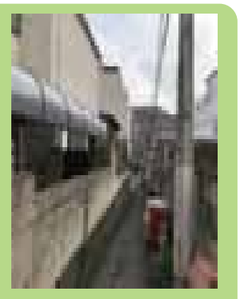
地形に沿って
作られている道路であり
昔から残る道だが、
拡幅がなされている



鐙坂
本郷台地から菊坂の
狭い谷に向かって下り、
先端が右にゆるく
曲がっている坂である
この坂の上の西側一帯は
上州高崎藩主大河内家
松平右京の中屋敷である



古い建物が密集し
車が通れないような
細い路地が入り
組んでいる



落差のある地形の所に江戸時代から続く金魚屋さん
があり、今は喫茶店も経営されている

炭団坂
本郷台地から
菊坂の谷へ下る急な坂

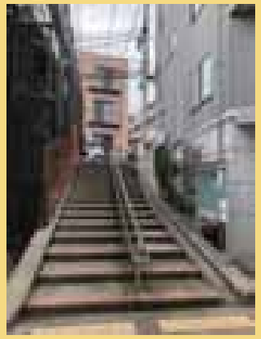
エリアごとの考察

江戸時代の地図を見てみると、長泉寺の門から一直線に一本の通りが南の方に伸びている。しかし、現代の地図を見てみても、実際に現地で確認してみてもそのような道は見当たらない。

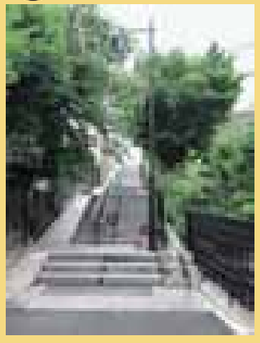
そこで、長泉寺の門から降りてくる階段（写真①）、高低差のある２本の通りを結ぶ階段（写真②）、住宅が密集し細い路地が存在するエリアの奥側の炭団坂に続く階段（写真③）、この三つが昔は位置が少しずつずれながらつながっていたのではないかと考えた。土地の高いところに寺がそびえたち、それを見上げるように一直線の道が伸びていく、というような光景あったのではないだろうか。

①

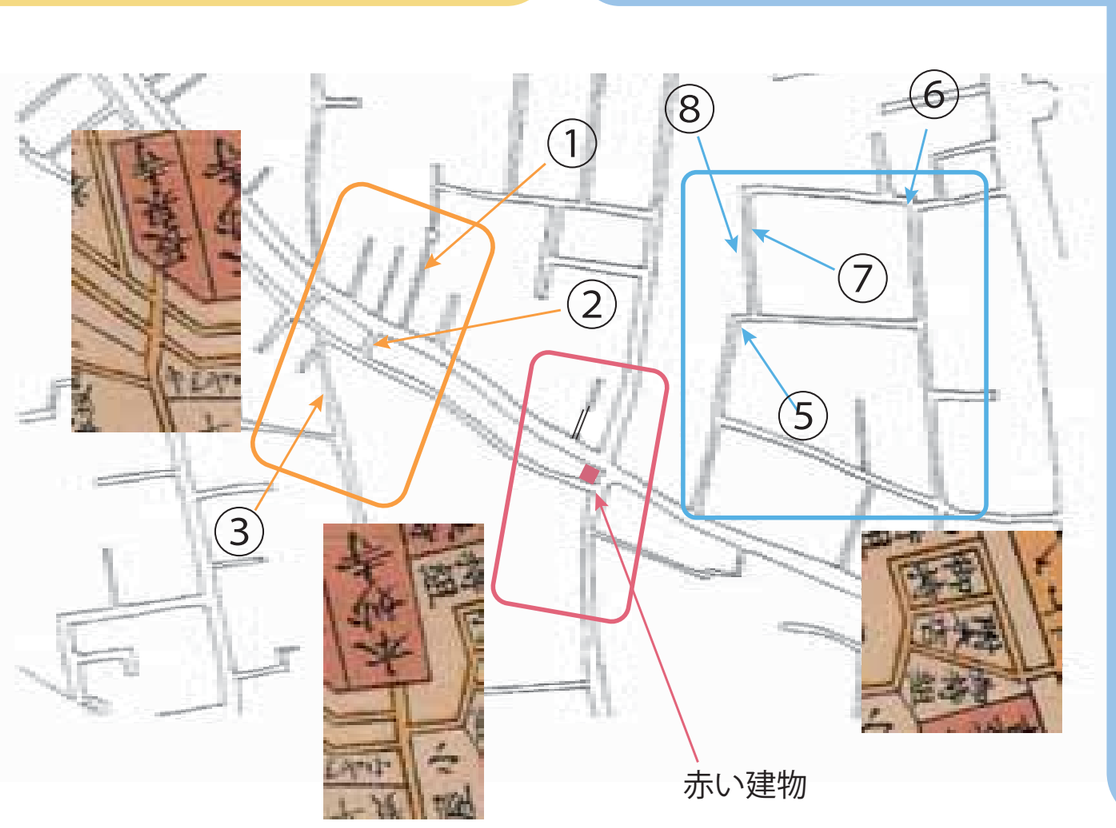
②



③



寺から炭団坂の方を見る。



⑤

⑥

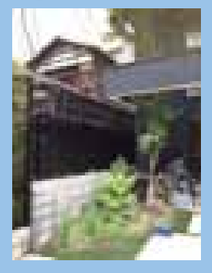
⑦

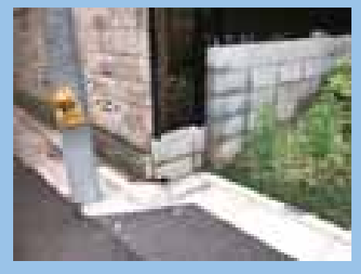
このエリアは江戸時代に描かれたそのままの形で今も存在している。写真のような不思議な道の繋がり方や、車がすれ違うことができないくらいの細い道がある (写真⑤⑥)。

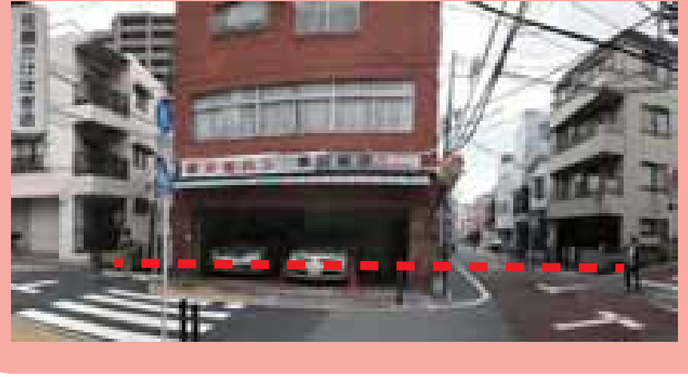
新築に建て替えられているところから道の整備がされていっている様子がわかりやすい (写真⑦)。古い木造建築と真新しい住宅が隣り合い、道幅も大幅に変わっているのが対照的で面白い (写真⑧)。

また、敷地を下げ道を広げたところには拡張の目印が必ず張られていることに気付いた。

⑧



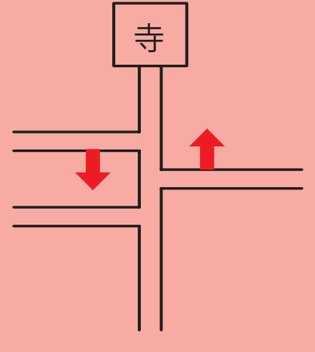




南側から見ると、赤い建物が飛び出ているのがわかる。

昔の地図では植溜にぶつかっていた道が、現代では寺の敷地の前を通る道とまるで一本道のように繋がっている。そこで図のように２本の道（もしくはどちらかの道）が拡張され、今では一本道のようになっていると考えた。

さらに、本妙寺があった場所から南に伸びる道は、写真の赤い建物が遮ることによって一見存在してないようである。しかし赤い建物を貫くように道をつないでみると自然につながることや、拡張の目印がはられていないことから、これらは昔は一本の大通りであったと考えた。まっすぐに続く坂の先に寺がそびえ立つ光景が想像できる。



中でも本郷は、東京大学を中心に書店や喫茶店、下宿など学生を支える街として昔から発展してきた。また、樋口一葉をはじめとした文豪ゆかりの街としても有名である。坂や崖などの地形の豊かさも相まって、独特の街並みが今も広がっている。

東大及び本郷の変遷

年号	東大の敷地	出来事	
1610	加賀・前田家の始まり		武家屋敷・寺
	下屋敷 ↓ 上屋敷		
1657		明暦の大火	
1910	一部、文部省用地になる		
1923		関東大震災	
1926	東京帝国大学設立	旅館	書店・飲食店・喫茶店の発達
1942		関東大空襲 下宿 ↓	
2018		アパート	

明治中期の高崎屋（文京ふるさと歴史館展示）

明治 37 年の赤門前（http://sebaika.sakura.ne.jp/hg103.html）

菊坂町（『新撰東京名所図会』明治 40 年発行）

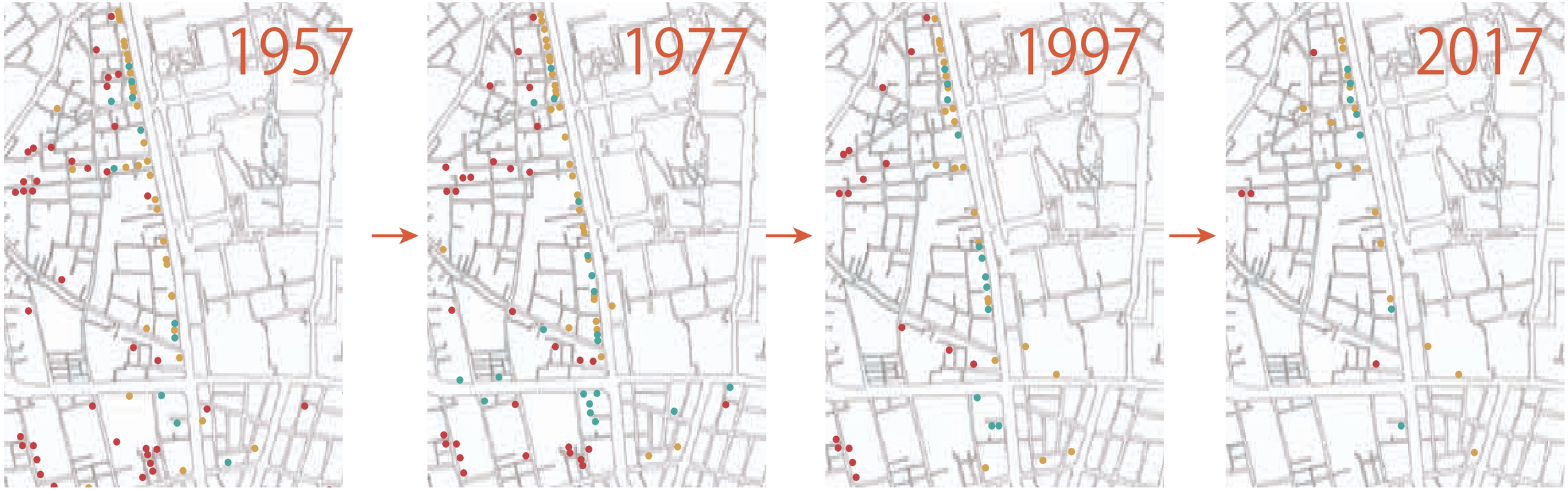
現在の高崎屋

現在の赤門前

現在の菊坂町

東大周辺の喫茶店・書店・下宿と旅館の変遷

■喫茶店 ■書店 ■旅館・下宿

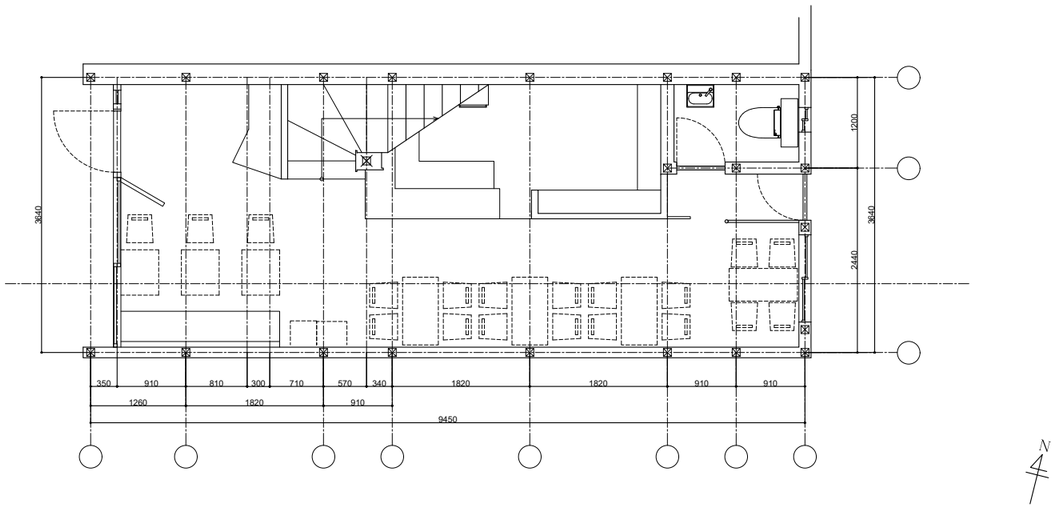


1957 年から 1977 年頃まで東大周辺、特に本郷通りに数多く建ち並んでいた喫茶店や書店、旅館・下宿は 1997 年頃から減少傾向にあり、2017 年には大幅に少なくなっていることが分かった。今後本郷通りではさらに区画整理が進んでいくこと、また古くから続くお店のオーナーの高齢化を考慮すると古くから続くお店がどんどん失われていくのではないかと考えている。

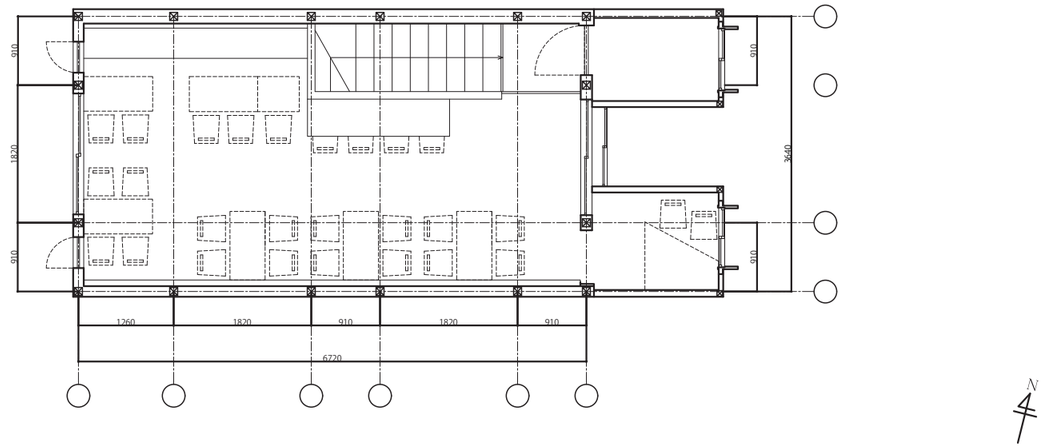
喫茶ルオー

昭和 27 ～ 54 年、本郷三丁目と東大赤門の中間地点に画廊喫茶として繁盛していた喫茶ルオー。120 席もの長いコの字型を中心に 2 階は 40 席ほど、その下には部屋が 3 つ存在していた。パソコンがなかった当時、読書会や討論会などによって色々なグループに分かれ、いくつかの部屋に分かれて勉強会をしていた。

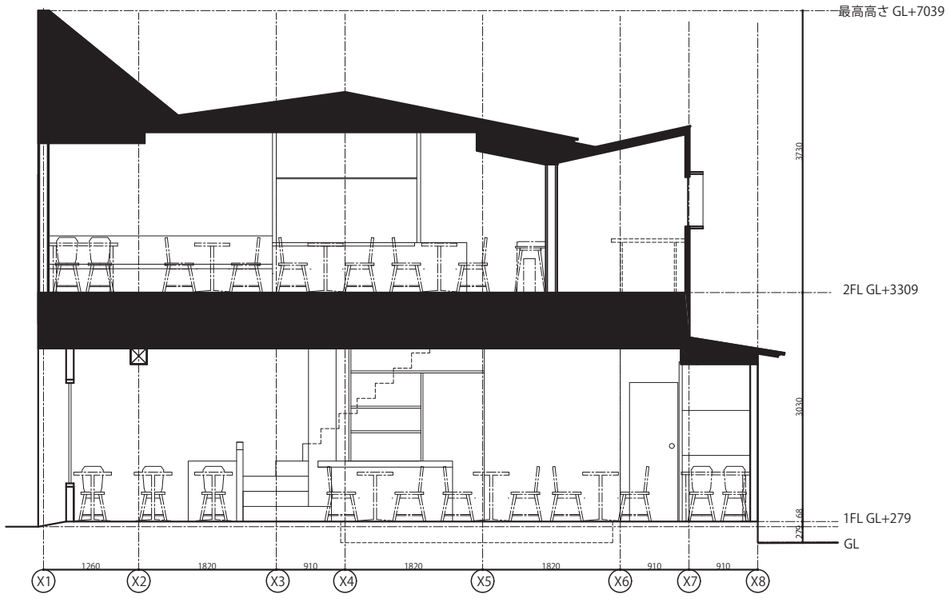
　そんなルオーが今のこの建物に移転してきたのは昭和 55 年のことである。建物自体は大正時代に建てられた長屋で、ルオーが入る前まで他にも様々なお店に利用されていた。開店時に階段の向きを変えたり前のお店から格子などの一部や家具を持ち出してくるなど、店が入れ替わる際に増改築され姿を少しずつ変えながら今も残っている。



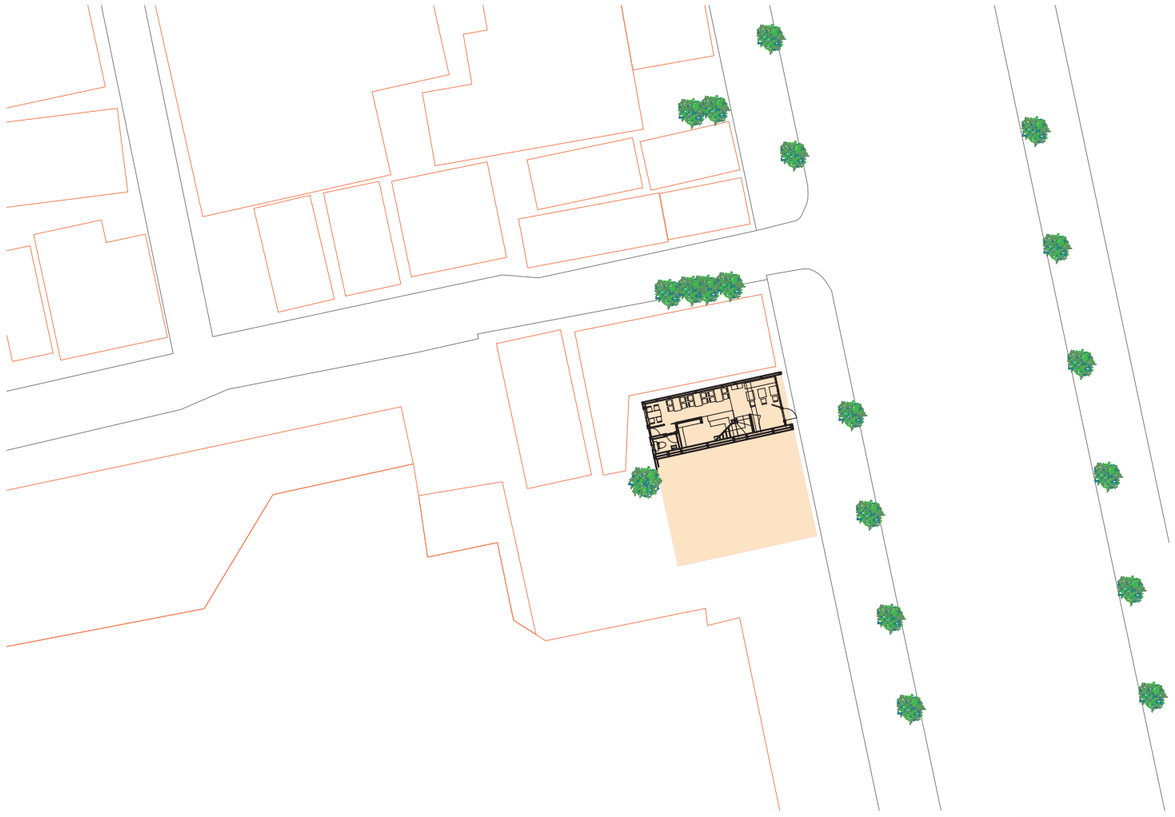
喫茶ルオー　1階　平面図	縮尺：　1:80



喫茶ルオー　2階　平面図	縮尺：　1:80



喫茶ルオー　断面図	縮尺：　1:80



喫茶ルオー　配置図	縮尺：　1:400

大工の人と相談しながら図面を製作した後も
改築・増築部分を変更したりして今の形となった。

聞き込み調査

山下淳一さん 78歳
昭和27～54年に画廊喫茶ルオー(移転前のお店)が本郷三丁目と赤門の間タンギー
の場所にあった。120席の長いコの字型にまわって部屋が下に３つあって二階は40席くらい。
パソコンがない時代で、読書会とか勉強会、討論会いろんなグループ(いまはそんなない)
部屋がいくつかに分かれてグループで勉強会していた。
イスや四つ足テーブルはそこから喫茶からもってきた。
それ以外(一本足テーブル)は昭和38年に作った。体格良くて足が邪魔になるから。
タンギーではつかっている？120あったうち いっぱいあちこち(???)
森田けんさん(亡くなられている、100歳こえている)がオーナーをやられていた。
雰囲気は雑誌のとおり20なんにん 14人くらい 38人 二階40人
中庭？
絵画も昔の画廊喫茶から持ってきた 森田けんさんのもの
画廊喫茶でも人気のある皆さんの作品
移転されたのが昭和55年 1980年から
1979年の11月まで以前の位置で、80年の五月祭にあわせて開店した。

建物は大正時代から、借りる前は牛丼屋さん、その前は計量器屋さん(計り屋さん)
服屋さんが多いからけいりょうやさんはかりやさん(はかりの一部がお店からでてきた!)
お隣はとおむら洋装店 裏の ふどうさん かんていし おとうさん (6:50????)仕立て
今は荷物置き
洋装店 遠村不動産事務所 ずっとあいてるガタガタであぶない

移転時にもともとあった建物の、階段の位置を変えた(逆向き)
台所の位置は(40年前)変わっていない トイレお手洗い近いから奥に作ろうと
思ったけどそのままに 奥ちょっとあいたところ ドア開けた時のむこう(9:10???)

植物スペースはあとからつけた。目の置き場がないから青いものを置こうと思って。
二階の予約席もあとからつけた。〇〇??のひとが勉強でつかうのに
上がったところにロッカー???つくって、物置つくって客席１つ作って小部屋にして
開店してから1、2年の間に

今は年配の方が多い 研究室の先生方が多い 昔は学生の方が多かった。
カフェとかに行っちゃう 昔の喫茶店はおもしろくて、60席70席ある
平面的ではなく立体的、中地下や中二階がある このあたりはそうだった
となりとは下へ見下すかんじ

二階の窓がわ 詩

昔まわりとの喫茶店どうしのつながりはあまりなかった(つとめてる方だから)
今はボンナさんやこころさんとの交流がある!仲良くしている。通りがかりの情報交換する。
先生たちもよくくるのでお話もする。

開店してからはお店の中はあんまりかわらない
キッチンがしてるのはもともと 階段を利用しようと思ったから、階段の下で狭いから
今になって体力的に段差が気になる

メニューは結構変わっている(写真)
こちらのお店ができた時に変えた
看板メニューは変わりなし
果物(みかんとか季節によって時価のどかな時代)とかビールとか、値段も全然ちがう
ビール小瓶
ウイスキー
Aサントリーオールド
Bトリス

絵描きさんがデザインした看板画廊喫茶→喫茶 パレットにレンガ

お店正面の格子も向こうから持ってきたもの。

画廊喫茶からもってこられた家具
→入口部分の格子も持ってきたもの。
一番奥の部屋でも格子を使ってて、
大工さんに一つずつ、もっと広かったんだけど両方狭めてやってもらっていた。

二階の壁の淵みたいなのがあってメニューが置かれていたりするじゃないですか。
あれって元々あったもの？
→あとから。メニューを置くためにあとからつけた。
　→それは移転する時につけられたんですか？
　　→開店から何年かしてからあった方が良いと気がついて、

入口部分の柵？も開店して2.3年でたった。色々と細々と大工さんに頼んで。
棚も彫り込んで作ってくれた。
たなのコーヒーかっぷのデザインは移転がする時に持ってきた椅子の背もたれのデザイン
(コーヒーかっぷ)を参考にしてつくられた。

この（コーヒーカップ）のデザインは誰がされたんですか？
最初は家具屋さんなんだろうけど、、、？

頼んでる大工さんはずっと一緒？
一緒です。
この地域の大工さんなんですか？
そもそも頼んだのはこの並びのブリキ屋さん（この並びがグループだから??）
で頼んで大工さん紹介をうけて、、、

昔この辺に下宿とかってありますか？
あっな。裏は全部、、、
そもそも下宿屋さんと日本旅館60軒ぐらいあった。もう今はこの辺は鳳明館ぐらいしかない、、、
向こう、、、3丁目にもいっぱいあったんだけど大分なくなった。

常連さんもいらっしゃる。東大の卒業生もよくいらっしゃる、昔からやっているから。
この辺りの中華料理屋からホットモットなどまですべて同じオーナーさん。
ついこの前の三月に亡くなり、いま相続している最中。

昔は都電がお店と東大前の通りを通っていた。三丁目で交差していた。日本橋～
おおじまち(?)まで昭和39年まで運行していた。
地下鉄の本郷三丁目ができる前まではこちらの路面電車があった側のほうが賑やかだった。
(今は本郷三丁目の方が賑やかだけど…)

ここの道路の区画は昔から変わっているのか
→郵便局は必要以上に下がっているんだけど6m下がっていることになってる。
3丁目の地下鉄の手前までは計画入ってる。3丁目のその先のビルが斜めになっているが
そこで計画区域はおわり。
2階、3階まで計画がよくなった？切り離せるように作ってある。(計画が入ってるから)

白山通り広くなってしまって…でも本郷通りはもうやらないみたい？
昔は地震研究??があったからできるだけこっちに寄せるってことが当時はあった、、、
東大もその頃(道路拡張の話が出来てた時に)は立川(昭和公園)の方に移転する話もあったが
官僚が強いからなくなった。

お店のレイアウトは大工さんと直接話し合って図面描いたりしてた。

万定フルーツパーラー

大正 3 年から始まった古くから残る喫茶店。八百屋が百を使うように当時喫茶店では万が使われていたことと、開店当時のオーナーの名前である定次郎を組み合わせて万定という名前になった。昔は隣に果物屋さんがあり、そこから果物を仕入れていた。

こころ

本郷で生まれ育った店主が 20 歳の頃に開店し、今年で 63 年を迎える喫茶店。元々昼間は喫茶店、夜はトリスバーの 24 時間体制で経営していたが人手不足もあり、現在は喫茶店に専念している。「特別なサービスは出来ないけれども気軽にご利用いただけるように」という店主の考えがあってなのか、自分のお家のように気軽に自由に足を運ぶ常連客が多い。

名曲・喫茶　麦

昭和 30 年、オーストラリアで作られた映画『未完成交響楽』でシューベルトと貴族の娘が逢引をしていたのが麦畑だったことから麦という名前が付き、開店した。一つ一つの席が完全に仕切られている訳ではないが、椅子などの家具の絶妙な配置によってプライベート空間が保たれているようである。

聞き込み調査

万定フルーツパーラー

喫茶店が始まったのはいつなんですか？
大正 3 年
大正 3 年に建てられたとお聞きしましたが、喫茶店の以前に
なにに使われていたか
ご存知ですか？わからない。
お父さんと使用人がたくさんいた、別の人が喫茶店をやっていた
誰から引き継がれたのですか？
おばあちゃんは子育ての合間に、昭和 30 年ごろから主人の手伝いを
するみたいな感じで始めた。
となりは以前果物屋さんだったとお聞きしましたが、いつ頃まで
お店を開いていたのですか？関係はあったか、、、、、、
横の家から果物を取り入れていた、スイカならスイカを横から
取ってきて切って出していた、フルーツポンチとか、
その頃はフルーツパーラーが流行っていた。
客層の変化、昔どんな人が使ってたか、いまと変化があるか？
昔は先生の溜まり場だった、お店が少なかったから、
万定に行けば誰かいるよーののりだった、
コーヒー飲みに来て、みんなで雑談して、のんびりとしていた。
今ほどカフェはなかった、
ここら辺は下宿というより、旅館が多かった、
レジも創業当時から使われてるんですか
昭和 9 年、アメリカ製、オハイオ州、
お父さんが新しいもの好きだった、1000 円、
当時家一軒の値段、コーヒーの機械は終戦の時、まだ使ってる
中のレイアウトとかはかわっていますか？
カウンターは東京オリンピックの時に直した、
もともとはまっすぐな大理石だった、
当時は丸い形は結構斬新だった。
下宿が昔はやっぱり多かったんですか？
下宿というより旅館が多かった
常連さんとかいるのかなみたいな
メニューはかわったりしてますか？
変わってるよ、バナナ、グレープフルーツ、オレンジ、
レモンスカッシュは前の名残、今あるフルーツは昔の名残、
前はカレーとかハヤシライスなかった、果物に特化していた
この地域の他の喫茶店とか行かれたりするのですか？
忙しくてあんま行く機会がない
喫茶店同士でなにか繋がりとかあったりするんですかね？
前はあったけど、当時の人たちは年取っちゃった
商店街の会合とかがあった、
あのコーヒーメーカーはなに、つかってないんですか
コーヒーミル、コーヒーの豆を挽く、終戦の時からずっと使ってる。
写真あるはあるか？
しまい込んじゃってて、テレビ局に貸したら返ってこないとか
があってあんま出したくない。
脇にある倉庫みたいな空間は何？
洗面台として使われていたが、今は倉庫となっている。
銀色の柱は昔の名残ですか？
二軒の家（パーラーと果物屋）を一軒にした時、
その時あった柱がそのままの形で残っている
万定の名前の由来は？
八百屋が百を使うように、当時は喫茶店は万を使っていて、
それとおじいさんの定次郎を組み合わせて万定

こころ

・こころの都合が悪ければ万定、ルオーさんに行ってくださいということがよくある(逆も然り)→喫茶店同士のコミュニティがある
例)ルオーに来てるお客様が「煙草が吸いたい」と言ったらルオー店主が「こころさんに行ってください」ということがある

・万定とこころが一番古い

・ご主人がそこで生まれ育って20歳から開店して今は63年経っている
→元々お姉さんがいてお姉さんがカフェを経営していた。ご主人はトリスバーを専門的にしていた(入口からカウンターのバーが並んでいた。
ビールとかではなくカクテルを作っていた)。
途中で兄弟がお店を持ったり東大の人を捕まえて結婚したり…ということがあり、二つを経営することが厳しくなってカフェの方に移ってきた。
昔は兄弟が7.8人と従業員もいたけれども今はご主人と息子しかいないので今はもう使われていない

・カフェとバーがあった頃は二つで24時間体制にしていた→バーは夕方～朝まで(東大の職員を相手にご主人が経営、昼間は奥さんがカフェをしていた)
→学園闘争があった頃、その経営体制を15年ぐらいしていた(その頃の客層として学生が非常に多かった)

・今は東大の中に色んなお店が入ってしまっているので学会があってもそこで済ましてしまっているので昔に比べたら静かになってきている
(→奥さん「私たちも歳をとってきたから丁度良いのかなぁ」)

・そうは言っても今でも学生さんのお客様がいないわけではない
→昔みたいに開くのを待ってるとまではいかないけど。今は駒場(多分東大の他キャンパス??)から本郷へ移ってきてここに来る人が多い。
大体大学院まで行く人が多いから4年間ぐらい通う人もいる。1人が来ると友達を連れてきて…なんてことも

・自分のお家みたいに気軽に自由に来てくれる。
→「いってきます」「ただいま」のやり取りなど。でも3月になるとみんな就職してしまうので4月は寂しい(就活報告もされるほど親しい仲になることも)

・(骨折してしまい、昔のように走れなくなってしまったので)2階は今は予約だけにさせてもらっているが、
顔見知り(教授など)が「論文書くから」「内緒話するから」と急遽お願いされることも→入ってすぐ上に上がってしまうので学生の常連客にもバレにくい場所)

・奥さんが怪我してからみんなが気をつかってくれる→2階を借りたお客様がお皿などを下げに来てくれているが本人曰く「そんなに気をつかわなくても…」
→長い付き合いがあるからこその関係

・特別なサービスは出来ないけど気軽にご利用いただけるように

・麦とこころは店同士の関係はないもののお客さんが両店を使い分けしている(3丁目付近で待ち合わせや打ち合わせをすることになったら麦で、
東大の正門付近界隈だとこころで…というように)→同じようなタイプの客が多い

・お互いに古い店だなぁと思っている

・ルオーのマスターがこころの前を通るとこころのご主人が出てきて井戸端会議をしていることも…
→その輪に通りがかりの東大の教授が入ってくることもある(どっちが支店か本店か言い合うなどの和気あいあい)

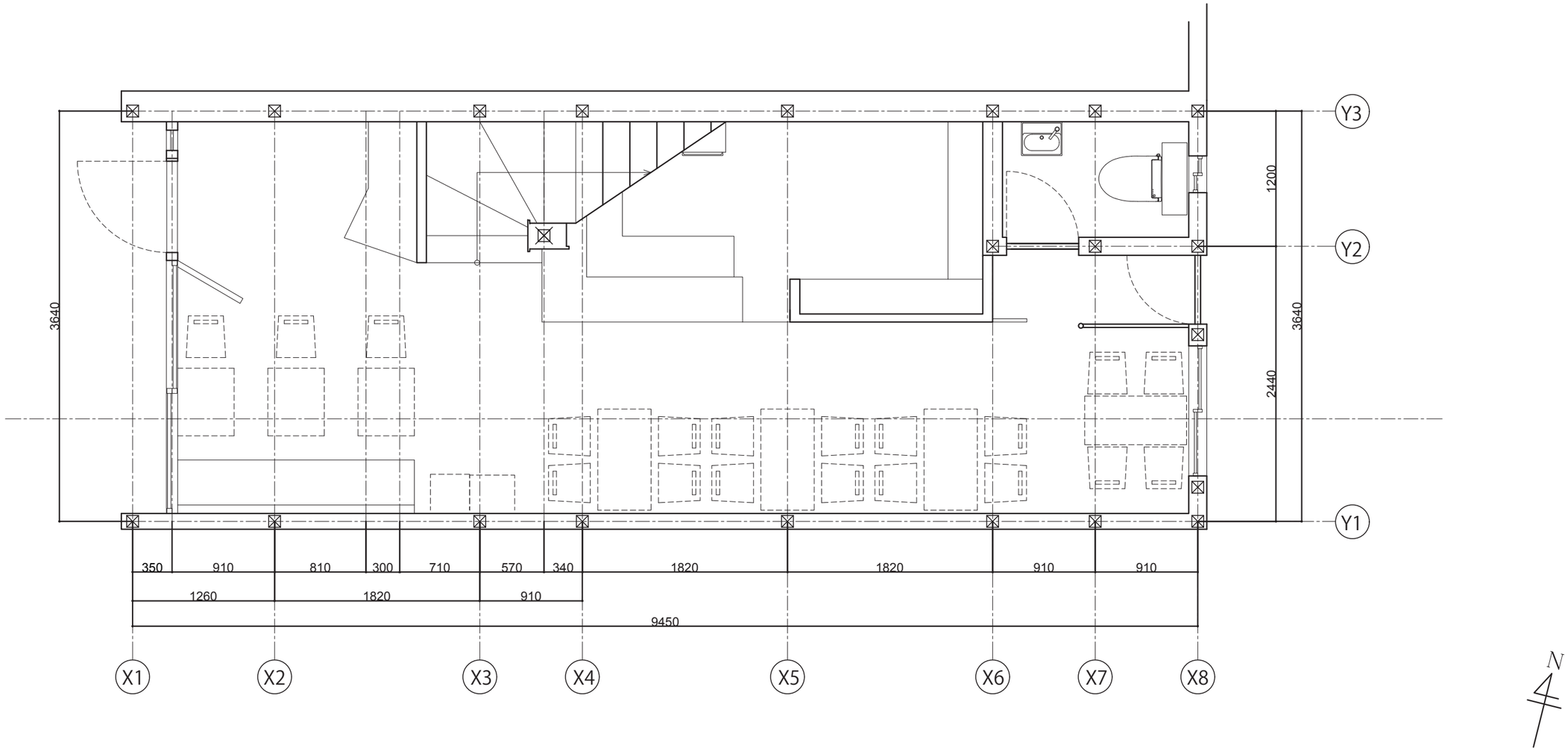
・ボンナも古いお店だけど全く付き合いはない(ルオーの店主もボンナとの付き合いはないそう)→ボンナはお隣との付き合いが少ない？

・こころはご近所さんとのお付き合いを大切にしてる→そういうお付き合いをすると助け合いになるから
例1)「留守にするからね～」「具合が悪いわけではないよ～」とご近所さんに伝えておくなど…
例2)奥さんが入院された時、東大の博士課程にいる常連客の女性が心配してお見舞いきてくれたりご主人のお世話をしてくれたりした。
お店を長期間休んでいると学生や教授、常連客などみなさん心配してくれる
例3)通りすがりの親子に「おかえりなさい」と挨拶

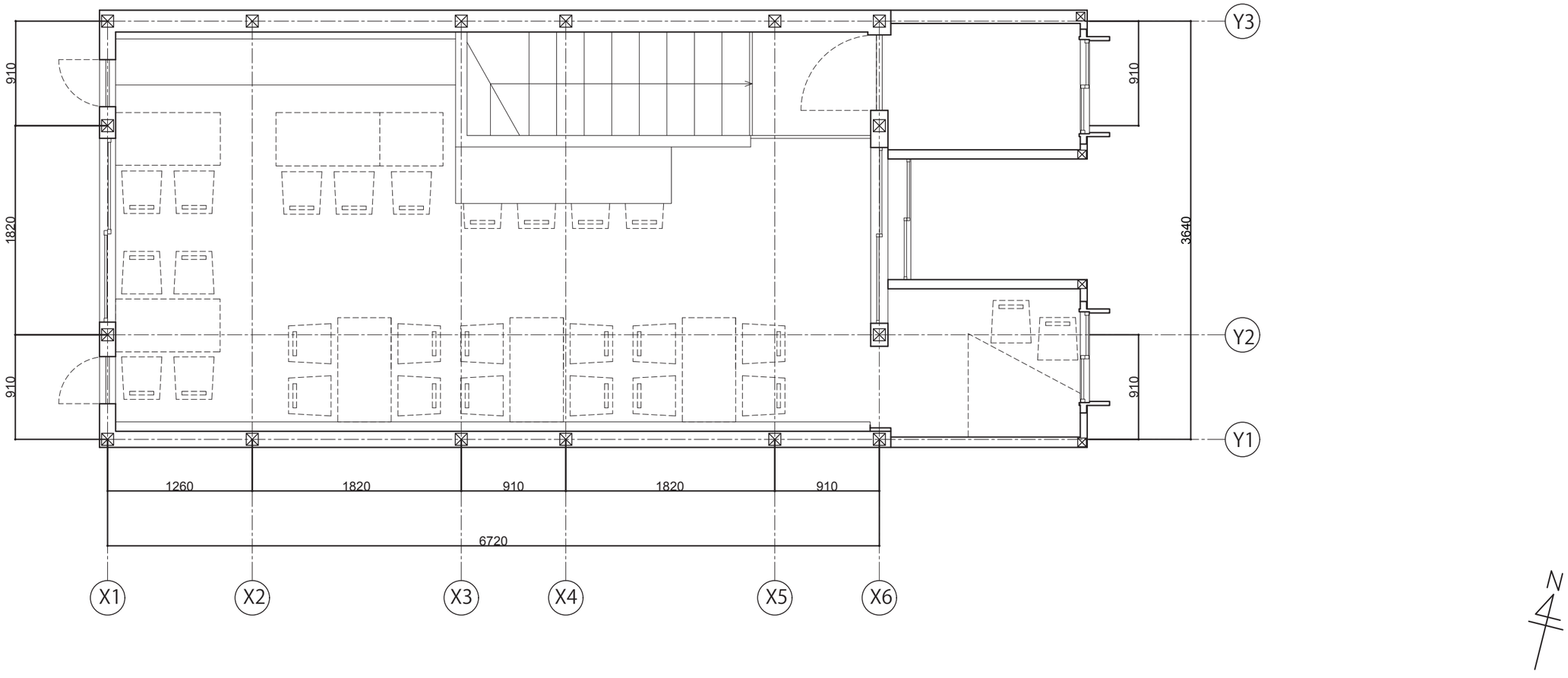
・新しく本郷に来てくれる人達のための東大新聞にもこころは取り上げられる

・店は古いがその分装飾はすごい。生花だとすぐ枯れてしまうので葉っぱのあるものに造花をさして長持ちさせつつ見栄えよくしている(シクラメン等)

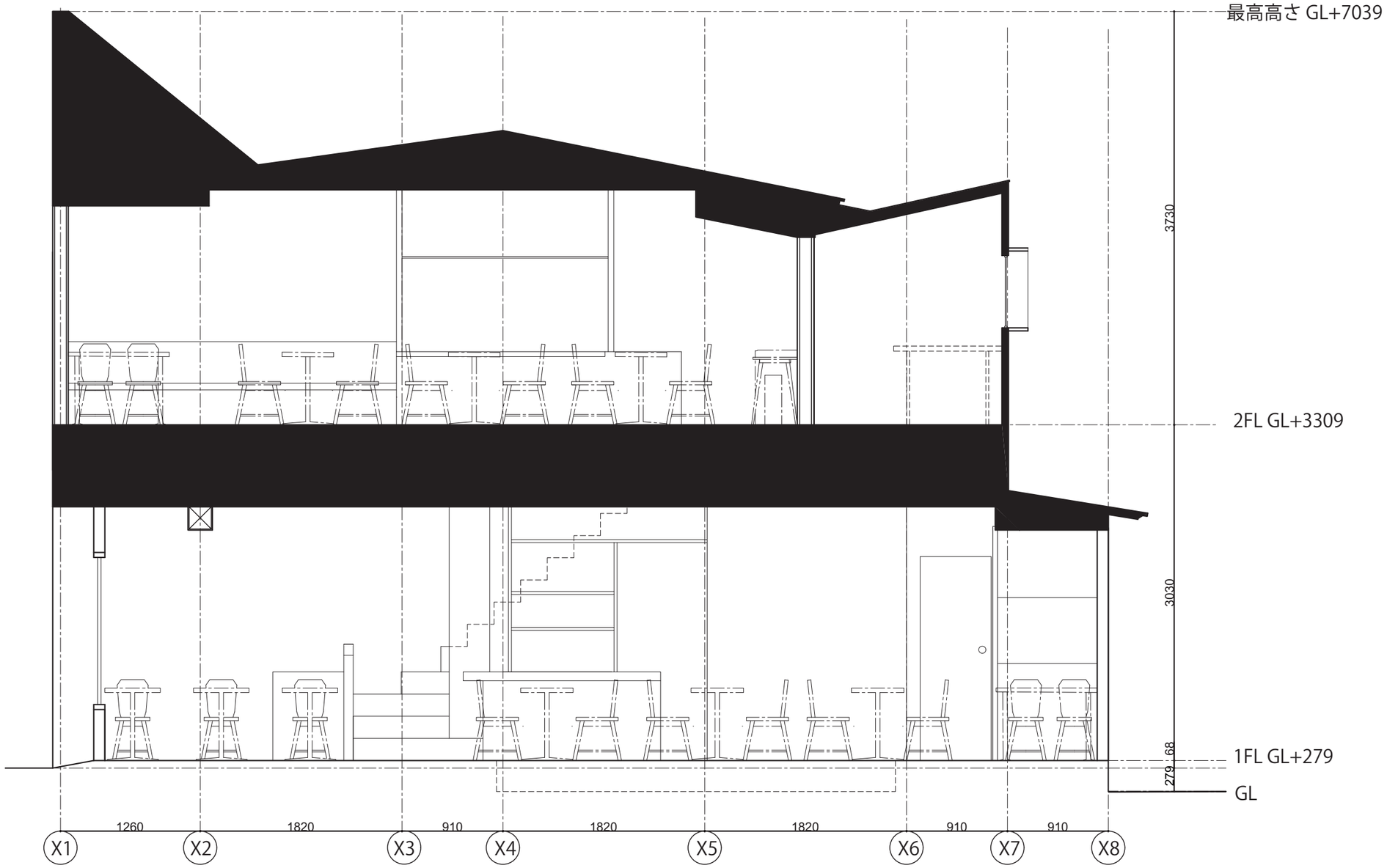
・店にある装飾品はほとんどがお客さんが持ってきてくれるもの
例1)2階に置かれている植栽は挿し木や葉っぱをちぎってそれを植えることでどんどん増えていく植物で、常連客が欲しいと言ったらその葉っぱを分けてあげることもある
例2)トイレの絵も世界一周したお客さんが描いたもの
例3)干支の置物はコンピュータの所長さんが毎年一つずつプレゼントしてくれ、昨年全部揃った
例4)紙粘土の人形
→いただきものは全部飾ってある。世界に一つだけだから。作った方やプレゼントしてくれた方の気持ちが嬉しい



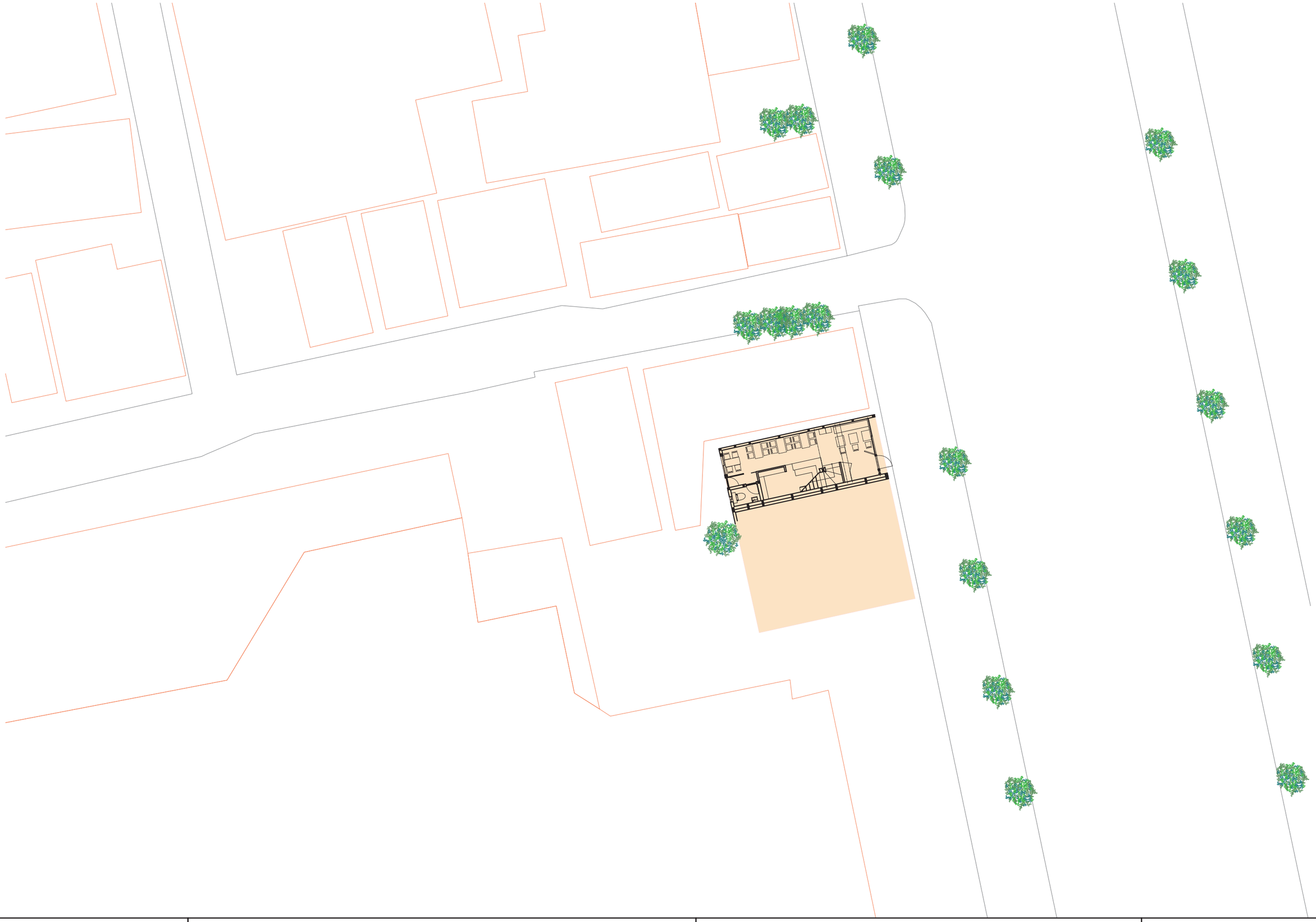
フィールドワーク	〒113-0033 東京都文京区本郷６丁目１－１４	喫茶ルオー平面図１F	縮尺：1/40



フィールドワーク	〒113-0033 東京都文京区本郷６丁目１－１４	喫茶ルオー平面図２F	縮尺：1/40



フィールドワーク	〒113-0033 東京都文京区本郷６丁目１－１４	喫茶ルオー南側断面図	縮尺：1/40



フィールドワーク	〒113-0033 東京都文京区本郷６丁目１－１４	喫茶ルオー　配置図	縮尺：1/200